人口問題研究（J. of Population Problems）50－1（1994.4）pp. 60～66

日本の出生動向：1992年

山本千鶴子・小島克久

1. はじめに

1992年の日本の出生動向を人口動態統計[1]を用いて報告する．出生率の計算方法は以下のように前回[2]までと基本的に同じである．したがって，統計情報部などの公表数値およびこれに基づく出生率とは以下の(1)，(2)の2点において異なる[3]．

(1) 出生数は外国籍の出生児を含む日本国内における総出生児数とし，出生率の算定はこれを分子とし，外国人人口を含む総人口を分母とする．

人口動態統計の公表出生数（1992年は1,208,989）は日本国籍のもの（したがって，父または母の少なくともどちらか一方が日本人であるもの）に限定され，外国籍の出生（父母の国籍がともに外国，1992年は9,276件）が除外されている．

父母の国籍（2区分）の組み合わせ別日本国籍出生児数は後出の表2に示す通りで，1992年の日本国籍出生児総数1,208,989のうち父母のどちらか一方が外国人である出生児数は17,770，日本国籍出生児総数のうち1.47％である．したがって，これを含めて分子とし，日本人人口を分母にした場合，日本人の出生率は1.47％（男で0.51％，女で0.96％）大きくなる．1992年の女性の合計出生率の公表値は1.50[4]であるが，分母・分子に外国人を含めると後述のように1.49となる．

(2) 率の分母となる年齢別人口は，総務庁統計局による推計人口を用いて算出した年平均人口とする[5]．

(3) 男女計の出生率は，各年齢の男と女の出生率を，男と女の人口を重みとして加重平均したものであるが，各年齢別の男女計の人口に対する男と女の出生数の合計の比率である．

(4) 男の出生率において，非嫡出出生数は嫡出出生の父の年齢分布によって按分する．

なお，非嫡出出生数は1992年に14,577（うち外国人839）で，総出生数1,218千の1.2％で，1991年と同じ割合である．

1）人口動態統計の利用に当たっては，厚生省大臣官房統計情報部の関係各位の協力を得た．ここに記して謝意を表する．

2）廣嶋清志・山本千鶴子，「日本の出生動向：1991年」，『人口問題研究』，第48巻4号，1993年1月，pp. 24-30.
廣嶋清志・山本千鶴子，「日本の出生動向：1990年」，『人口問題研究』，第48巻1号，1992年4月，pp. 58-65.
廣嶋清志・坂東里江子，「日本の出生動向：1988～1989年」，『人口問題研究』，第46巻4号，1991年1月，pp. 66-73.
廣嶋清志・坂東里江子，「日本人口の出生力に関する指標：男子，女子および男女計，1970～1987年」，『人口問題研究』，第45巻3号，1989年10月，pp. 29-40.

3）一般公表統計では，出生数は日本国籍出生児数を，分母人口は10月1日の日本人女子人口を採っている．この方法による1992年の出生率は下記参照．
石川晃，「全国人口の再生産に関する主要指標：1992年」，『人口問題研究』，第49巻4号，1994年1月，pp. 73-80.

4）注3文献参照．

5）年平均人口の計算方法は注2文献（1989年）参照．なお，1991年，92年の人口は総務庁統計局の以下の文献による．『平成3年10月1日現在推計人口』，人口推計資料NO.63および『平成4年10月1日現在推計人口』，人口推計資料NO.65.

(5) 女子の14歳以下の出生数(1992年非嫡出22) は15歳に加え，50歳以上の出生数(1992年 2) はそのままとする.

(6) 父または母の年齢不詳の出生数（父 7，母嫡出 4，非嫡出26）はそれぞれ既知の年齢分布で配分する.

(7) 「既婚合計出生率」(ever-married total fertility rate, ETFR) を計算する．これは，合計出生率（total fertility rate, TFR) を合計初婚率（total first marriage rate, TFMR)[6] で割ったもので，合計出生率のうち婚姻の要因を除き婚姻出生率の動向を表すためのものである．これは，年齢別初婚率と年齢別出生率が一定（初婚年齢別結婚持続期間別出生率一定のための必要条件）と仮定したとき，既婚者が生涯に持つ平均的な出生児数を意味する．したがって，合計出生率は次のように分解される.

$$TFR = TFMR \cdot ETFR.$$

2. 若年と高年で出生数増加

出生数は1992年に1,218千件となり，前年の1,231千件から13千件少なくなった（表 1)．出生数の動向は，1974年から1990年まで16年間続いた減少傾向が1991年で上昇に転じたが，1992年で再び減少した.

このうち外国籍の出生児数は1992年には 9 千人を超え，総出生数の0.8%に達した．また，父母の国

表 1　日本における国籍別出生児数
Table 1　Births by nationality in Japan

年次	出生児数			割合 (%)		
	総数	日本人	外国人	総数	日本人	外国人
1955	1,746,299	1,730,692	15,607	100.00	99.11	0.89
1960	1,619,175	1,606,041	13,134	100.00	99.19	0.81
1965	1,837,476	1,823,697	13,779	100.00	99.25	0.75
1970	1,947,944	1,934,239	13,705	100.00	99.30	0.70
1975	1,914,707	1,901,440	13,267	100.00	99.31	0.69
1980	1,588,632	1,576,889	11,743	100.00	99.26	0.74
1985	1,437,375	1,431,577	5,798	100.00	99.60	0.40
1986	1,388,878	1,382,946	5,932	100.00	99.57	0.43
1987	1,354,232	1,346,658	7,574	100.00	99.44	0.56
1988	1,321,619	1,314,006	7,613	100.00	99.42	0.58
1989	1,253,981	1,246,802	7,179	100.00	99.43	0.57
1990	1,229,044	1,221,585	7,459	100.00	99.39	0.61
1991	1,231,382	1,223,245	8,137	100.00	99.34	0.66
1992	1,218,265	1,208,989	9,276	100.00	99.24	0.76

1985年から改定国籍法が施行された．外国人には非嫡出児（1991年 701人，1992年 839人）を含む.

6) 廣嶋清志・山本道子，「日本の婚姻率：1980～1987年」，『人口問題研究』，第46巻 1 号，1990年 4 月，pp. 67-82.

表2　日本における父母の国籍別日本国籍出生児数
Table 2 Births of Japanese nationality by nationality of Parents

年次	実数				割合（%）			
	総数	父日本人 母日本人	父日本人 母外国人	父外国人 母日本人	総数	父日本人 母日本人	父日本人 母外国人	父外国人 母日本人
1987	1,346,658	1,336,636	5,538	4,484	100.00	99.26	0.41	0.33
1988	1,314,006	1,302,832	6,615	4,559	100.00	99.15	0.50	0.35
1989	1,246,802	1,234,626	7,390	4,786	100.00	99.02	0.59	0.38
1990	1,221,585	1,207,899	8,695	4,991	100.00	98.88	0.71	0.41
1991	1,223,245	1,207,827	10,027	5,391	100.00	98.74	0.82	0.44
1992	1,208,989	1,191,219	11,658	6,112	100.00	98.53	0.96	0.51

父日本人母日本人には母日本人の非嫡出児（1991年 13,592人，1992年 13,738人）を含む.

籍別の日本国籍の出生児数は，統計がとれる1987年以後母外国人および父外国人のものはそれぞれ少しずつ増加し，1992年には両方合わせて17,770件で総出生数の1.5%に達した（表1，表2）．しかし，これは夫妻の一方が外国人である婚姻の割合3.41%[7]に比べて非常に小さい.

1992年の年齢別の出生数をみると第2次ベビーブーム世代に近い世代がしだいに結婚・出産を始め，ひのえうまの1966年生まれの26歳より若い年齢では，男女とも出生数が増大している（後出表5）．これは，あとでみるように年齢別出生率は男では22～34歳（24歳を除く），女では19～30歳で低下しているが，25歳以下の人口がしだいに多くなることによって出生数の増大が見られたものであるといえよう.

出生件数における平均出生年齢は，男は1991年の31.77歳から31.75歳に低下したが，女は28.90歳から28.93歳に上昇した．この要因は，男については上記の通り第2次ベビーブーム世代に近い世代の結婚・出産の比重が大きくなっている結果と思われるが，女については，それ以上に平均初婚年齢の上昇が影響しているものと思われる.

長期的な出生動向を女子20～34歳人口[8]の規模，有配偶率，有配偶出生率の動向によって説明したものが表4である．1970～1992年の出生数減少には，1）有配偶率の低下，2）女子人口の減少，3）有配偶出生率の低下がこの順に寄与していることがわかる[9].

3. 合計出生率は男女共に低下，既婚合計出生率はさらに低下

合計出生率は，男は1970～1990年にかけて，2.18から1.47まで低下してきたが，1991年にはわずかに上昇し，1992年で再び低下し1.46になった．一方，女は1970年の2.13から1992年の1.49に至るまで低下傾向が続いている．男女計の合計出生率は1991年は男のそれを反映して低下は止まったが，1992年は再び低下した.

---

7) 山本千鶴子・小島克久，「日本の婚姻・離婚の動向：1992年」，『人口問題研究』，第50巻1号，1994年4月，pp. 67-82.

8) 20～34歳女子の出生数が総出生数に占める割合は，1970年には94.2%，1992年に89.8%である.

9) 1992年の出生数と1970年の出生数の比は次のように20～34歳女子人口，有配偶出生率，有配偶率それぞれの比に分けられる.

$$\frac{1{,}218}{1{,}948}=\frac{12{,}570}{14{,}211}\times\frac{0.204}{0.218}\times\frac{0.474}{0.628},\quad 0.625=0.885\times0.936\times0.755$$

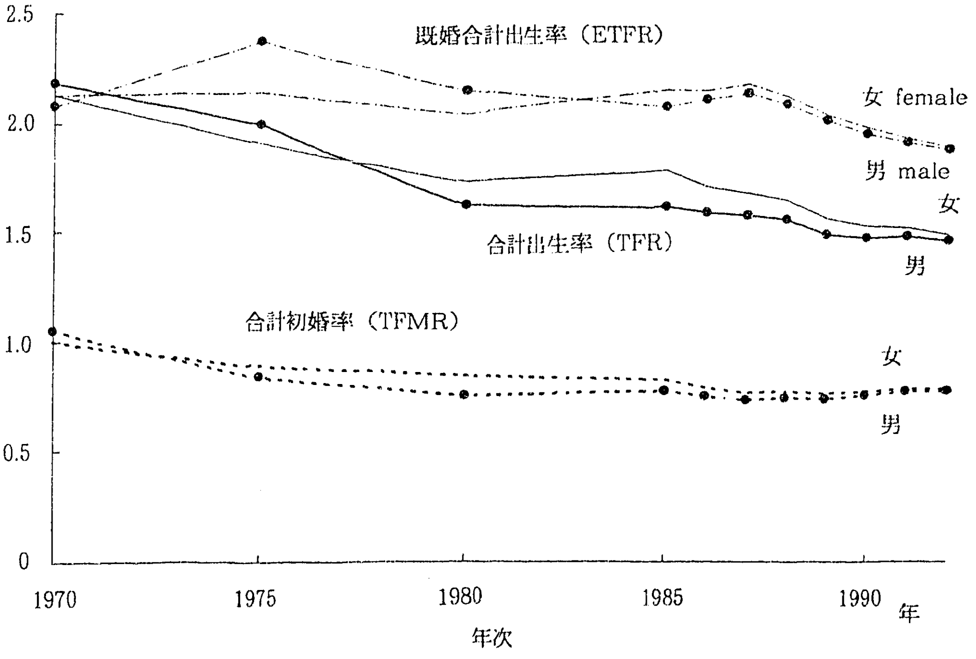
詳しくは，注2文献（1992年）参照.

表3　性別合計出生率，合計初婚率および既婚合計出生率
Table 3 Total fertility rate, total first marriage rate, and ever-married total fertility rate

年　次	男 male			女 femal			男女計
	合計出生率 TFR	合計初婚率 TFMR	既婚合計出生率	合計出生率 TFR	合計初婚率 TFMR	既婚合計出生率	合計出生率 TFR
1970	2.18389	(1.05)	(2.08)	2.12997	(1.00)	(2.13)	2.15603
1975	1.99339	(0.84)	(2.37)	1.90727	(0.89)	(2.14)	1.94907
1980	1.62227	0.75600	2.14586	1.73239	0.84861	2.04144	1.67587
1985	1.61587	0.77868	2.07514	1.78416	0.82950	2.15089	1.67975
1986	1.58916	0.75359	2.10879	1.70865	0.79502	2.14919	1.64671
1987	1.57583	0.73758	2.13649	1.67979	0.77081	2.17925	1.62557
1988	1.55693	0.74618	2.08653	1.64625	0.77509	2.12395	1.59918
1989	1.48978	0.74020	2.01267	1.56256	0.76665	2.03817	1.52387
1990	1.47364	0.75633	1.94841	1.52976	0.77285	1.97938	1.49999
1991	1.48098	0.77530	1.91020	1.52333	0.78947	1.92956	1.50070
1992	1.46209	0.77804	1.87920	1.49207	0.78914	1.89075	1.47562

既婚合計出生率は合計出生率を合計初婚率で割ったもの．したがって，合計出生率＝合計初婚率×既婚合計出生率である．
（ ）内の合計初婚率は，阿藤誠，「出生率低下の原因と今後の見通し」，『人口問題研究』第171号，1984年7月，pp.22－35．

図1　合計出生率，合計初婚率，既婚合計出生率の推移
Figure 1 Total fertility rate, total first marriage rate, and ever-married total fertility rate



これに対して，夫婦1組あたりの子供数に相当する既婚合計出生率は男は1980～92年に2.15から1.88へ，女は1985～92年に2.15から1.89へと低下した（表3，図1）．既婚合計出生率は，合計出生率の低下にもかかわらず1989年ごろまで2以上を維持してきたが，1990年以後は2以下に低下している．

以上の結果を，出生数について要因分解した表4の結果と比較すると，1991年から1992年にかけて，20～34歳女子有配偶率（(2)／(3)）はひきつづき低下し，20～34歳女子有配偶出生率（(1)／(2)）はやや低下した．これらは合計初婚率の停滞，既婚合計出生率の低下とは一応，同方

表 4　出生数および出生率の要因分解：1920 ～ 92 年
Table 4　Components of births and birth rate

年次	実　数（1,000 人）				率					
	出生数 Birth (1)	20～34歳 有配偶 女子人口 (2)	20～34歳 女子人口 (3)	総人口 (4)	粗出生率 CBR (1)/(4)	20～34歳 女子有配 偶出生率 (1)/(2)	20～34歳 女子有配 偶率 (2)/(3)	20～34歳 女子人口 割合 (3)/(4)	20～34歳 有配偶女子 人口割合 (2)/(4)	20～34歳 出生率 (1)/(3)
1920	2,026	4,720	5,986	55,963	0.036	0.429	0.788	0.107	0.084	0.338
1925	2,086	5,163	6,419	59,737	0.035	0.404	0.804	0.107	0.086	0.325
1930	2,085	5,543	7,107	64,450	0.032	0.376	0.780	0.110	0.086	0.293
1935	2,191	5,834	7,857	69,254	0.032	0.376	0.742	0.113	0.084	0.279
1940	2,116	5,739	8,304	71,933	0.029	0.369	0.691	0.115	0.080	0.255
1947	2,679	…	9,546	78,101	0.034	…	…	0.122	…	0.281
1950	2,338	6,689	10,095	83,200	0.028	0.349	0.663	0.121	0.080	0.232
1955	1,746	7,117	11,355	89,276	0.020	0.245	0.627	0.127	0.080	0.154
1960	1,619	7,693	12,079	93,419	0.017	0.210	0.637	0.129	0.082	0.134
1965	1,837	8,408	12,889	98,275	0.019	0.219	0.652	0.131	0.086	0.143
1970	1,948	8,927	14,211	103,720	0.019	0.218	0.628	0.137	0.086	0.137
1975	1,915	9,692	14,497	111,940	0.017	0.198	0.669	0.130	0.087	0.132
1980	1,589	8,907	13,727	117,060	0.014	0.178	0.649	0.117	0.076	0.116
1985	1,437	7,217	12,406	121,049	0.012	0.199	0.582	0.102	0.060	0.116
1986	1,389	6,909	12,103	121,672	0.011	0.201	0.571	0.099	0.057	0.115
1987	1,354	6,663	12,059	122,264	0.011	0.203	0.553	0.099	0.054	0.112
1988	1,322	6,453	12,056	122,783	0.011	0.205	0.535	0.098	0.053	0.110
1989	1,254	6,330	12,139	123,255	0.010	0.198	0.521	0.098	0.051	0.103
1990	1,229	6,111	12,186	123,611	0.010	0.201	0.501	0.099	0.049	0.101
1991	1,231	5,989	12,389	124,043	0.010	0.206	0.483	0.100	0.048	0.099
1992	1,218	5,959	12,570	124,350	0.010	0.204	0.474	0.101	0.048	0.097

総務庁統計局『国勢調査報告』，厚生省大臣官房統計情報部『人口動態統計』による．1955 年以降の出生数は外国人および非嫡出出生児を含む．有配偶人口，有配偶率は 1986, 87, 88 年は研究資料『わが国女子の世代結婚表：1950 ～ 87 年』，1989, 91, 92 年は総務庁統計局『労働力調査年報』による．
(1)/(2)：20～34歳女子有配偶出生率は出生がこの女子からのみ発生すると仮定した出生率．
(1)/(3)も同じ．これにより次のように分解される．
出生数：(1)=(1)/(2)×(2)/(3)×(3)，あるいは粗出生率：(1)/(4)=(1)/(2)×(2)/(3)×(3)/(4)．

向の動きを示している．

なお，従来，合計出生率の分析には年齢別有配偶率が用いられる例が多く，1985～1990年における有配偶出生率はほとんど低下していないとしており，今回の計算結果と異なる[10]が，過去の初婚の累積結果である有配偶率を使う分析では合計出生率の年次変動に対する結婚の影響を十分表すことができず，むしろ年次別の初婚率を用いる方が望ましいものと考えられる．

既婚合計出生率の1987年の2.18から1990年の1.97への低下は，1992年の出生動向基本調査データ[11]による1985年の2.17から1990年の2.04までの年次別の夫婦出生率の低下と比較的よく一致している．

4.　年齢別出生率の分散はさらに大に，女の平均出生年齢は29歳を上回る

1992年の年齢別出生率は，1990年に比べおおむね男25～34歳，女19～30歳の生み盛りの年齢を除いていずれも上昇し，分散がより大になった．男の年齢別出生率の最高値は，1991年と同様に1992年も30歳（0.12102）であるが，その値は低下した．女の最高値は1987年以来ひきつづき28歳で，1992年は

10）詳しくは，注２文献（1993年）参照．
11）厚生省人口問題研究所『日本人の結婚と出産　平成４年第10回出生動向基本調査（結婚と出産に関する全国調査）－第Ⅰ報告書－』，調査研究報告資料第７号，1993年11月参照．

表5　性，年齢別出生数および出生率：1991，1992年
Table 5　Births and birth rate by age and sex: 1991, 1992

年齢	男 male				女 female				男女計 total	
	1991年		1992年		1991年		1992年		1991年	1992年
	出生数	出生率(‰)	出生数	出生率(‰)	出生数	出生率(‰)	出生数	出生率(‰)	出生率(‰)	出生率(‰)
総数	1,231,382	20.24	1,218,265	19.96	1,231,382	19.52	1,218,265	19.25	19.87	19.59
15	–	–	–	–	132	0.15	124	0.14	0.07	0.07
16	–	–	–	–	622	0.65	646	0.71	0.32	0.35
17	29	0.03	0	0.00	2,001	2.02	1,964	2.07	1.00	1.01
18	1,463	1.39	1,577	1.51	4,897	4.88	4,880	4.91	3.09	3.16
19	4,280	4.15	4,481	4.26	10,908	11.11	10,961	10.95	7.55	7.52
20	8,548	8.54	9,014	8.76	18,099	18.89	18,494	18.84	13.60	13.68
21	13,794	14.22	14,218	14.22	27,306	29.37	27,545	28.78	21.64	21.34
22	19,872	21.08	20,336	20.97	37,847	41.56	37,300	40.11	31.14	30.34
23	27,532	29.77	27,999	29.67	52,921	59.02	52,018	57.11	44.17	43.15
24	34,624	40.05	37,880	40.92	66,632	79.19	70,262	78.34	59.35	59.33
25	42,736	55.36	45,964	53.11	80,599	106.99	81,936	97.28	80.86	74.90
26	63,139	72.83	55,192	71.43	110,493	130.54	93,753	124.40	101.34	97.58
27	74,186	89.57	76,680	88.31	117,947	145.89	119,588	141.06	117.39	114.37
28	86,043	106.65	85,148	102.61	120,695	153.29	118,702	146.63	129.69	124.34
29	94,062	119.68	92,710	114.74	114,783	149.50	114,264	145.00	134.41	129.68
30	97,680	125.15	95,233	121.02	102,320	134.14	101,171	131.65	129.59	126.27
31	97,224	123.08	94,039	120.35	87,097	112.59	86,244	113.00	117.89	116.72
32	95,742	120.22	91,052	115.16	72,293	92.53	71,492	92.40	106.51	103.90
33	84,752	108.88	85,619	107.41	56,100	73.35	58,053	74.28	91.27	91.01
34	73,471	94.60	73,149	93.94	42,294	55.42	42,904	56.07	75.18	75.17
35	65,903	80.85	63,442	81.67	32,103	40.10	32,254	42.26	60.66	62.14
36	56,294	67.04	54,461	66.83	23,903	28.99	23,894	29.84	48.19	48.50
37	44,266	51.70	44,604	53.13	16,397	19.41	17,236	20.91	35.66	37.17
38	36,459	40.10	35,090	41.01	11,884	13.19	11,548	13.67	26.70	27.43
39	28,987	30.02	27,925	30.73	8,132	8.49	8,157	9.05	19.30	19.94
40	22,512	21.79	22,115	22.92	5,465	5.34	5,436	5.68	13.60	14.34
41	17,521	15.62	16,884	16.36	3,506	3.15	3,405	3.33	9.42	9.88
42	13,693	11.41	13,038	11.64	2,131	1.79	2,031	1.83	6.62	6.76
43	9,685	8.17	10,022	8.37	1,116	0.95	1,158	0.98	4.58	4.69
44	5,583	5.43	7,241	6.12	506	0.50	542	0.46	2.93	3.30
45	2,743	3.67	4,307	4.19	156	0.21	224	0.22	1.94	2.22
46	2,213	2.71	2,087	2.80	59	0.07	51	0.07	1.38	1.44
47	1,808	1.95	1,584	1.94	26	0.03	23	0.03	0.98	0.98
48	1,269	1.37	1,362	1.47	9	0.01	3	0.00	0.69	0.73
49	918	0.98	954	1.04	4	0.00	1	0.00	0.49	0.52
50	655	0.73	733	0.78	–	–	0	0.00	0.36	0.39
51	426	0.52	527	0.59	–	–	2	0.00	0.26	0.29
52	300	0.40	383	0.47	–	–	0	0.00	0.20	0.23
53	229	0.29	245	0.33	–	–	0	0.00	0.14	0.16
54	201	0.25	203	0.26	–	–	0	0.00	0.12	0.13
15－19	5,772	1.13	6,058	1.22	18,561	3.84	18,574	3.94	2.45	2.54
20－24	104,370	22.19	109,448	22.48	202,806	44.71	205,620	43.97	33.24	33.01
25－29	360,166	88.71	355,694	85.83	544,516	137.39	528,241	130.71	112.76	107.99
30－34	448,869	114.45	439,091	111.59	360,103	93.64	359,864	93.42	104.15	102.60
35－39	231,910	52.87	225,523	53.75	92,418	21.35	93,088	22.52	37.22	38.25
40－44	68,995	12.39	69,300	12.60	12,725	2.31	12,573	2.31	7.37	7.48
45－49	8,950	2.06	10,294	2.32	254	0.06	302	0.07	1.05	1.19
50－54	1,811	0.44	2,091	0.50	–	–	2	0.00	0.22	0.25
55－59	419	0.11	507	0.13	–	–	–	–	0.05	0.06
60－64	97	0.03	225	0.07	–	–	–	–	0.01	0.03
65－69	19	0.01	31	0.01	–	–	–	–	0.00	0.01
70－74	3	0.00	1	0.00	–	–	–	–	0.00	0.00
75歳以上	2	0.00	2	0.00	–	–	–	–	0.00	0.00
合計	1,231,382	1,480.98	1,218,265	1,462.09	1,231,382	1,523.33	1,218,265	1,492.07	1,500.70	1,475.62
平均年齢	31.77	31.66	31.75	31.75	28.90	29.00	28.93	29.10	30.34	30.42

出生数，人口に外国人を含む．人口は年平均人口．総数行の率は総人口に対する率．合計行の率は合計出生率．男女計欄の出生率の分子は男及び女の年齢別出生数の計．したがって，男女計の総数行の出生率は粗出生率の2倍．

0.14663で，前年より低下した（表5，図2参照).

率による平均出生年齢（出生の発生する人口の年齢構成を標準化した平均）は男では1992年に31.74歳で1975年の30.49歳以来1.25歳上昇した．女では1992年に29.10歳で前年より0.10歳上昇し，1975年の27.48歳以来1.62歳上昇した．なお，男の件数による平均年齢（31.75歳）はまだ率による平均年齢（31.74歳）よりわずかに高いが，今後これを超えてさらに低下するものと予想される．これに対して，女の件数による平均年齢（28.93歳）はすでに率による平均年齢（29.10歳）より低くなっている（図3参照).

図2　性，年齢別出生率
Figure 2　Birth rate by age and sex

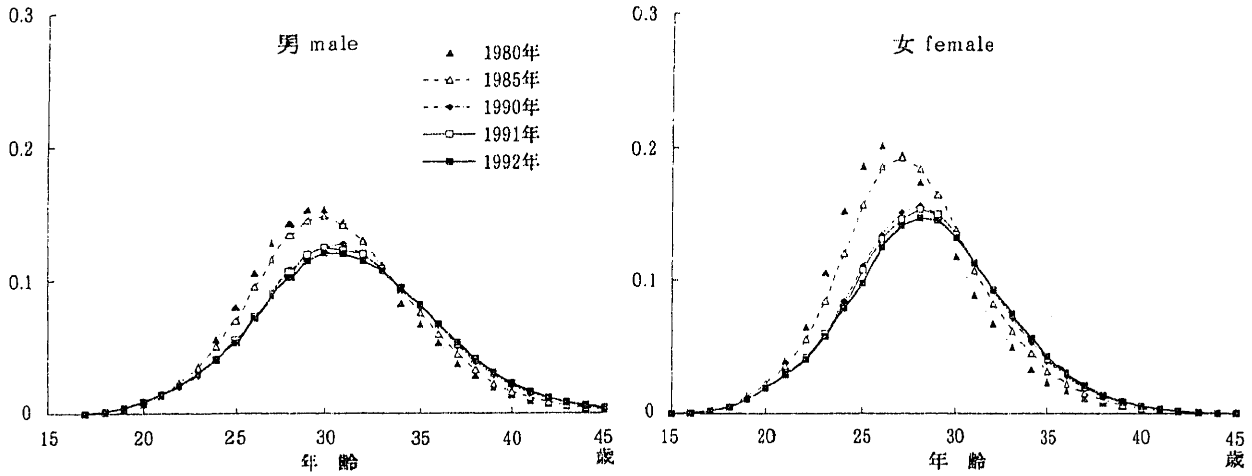
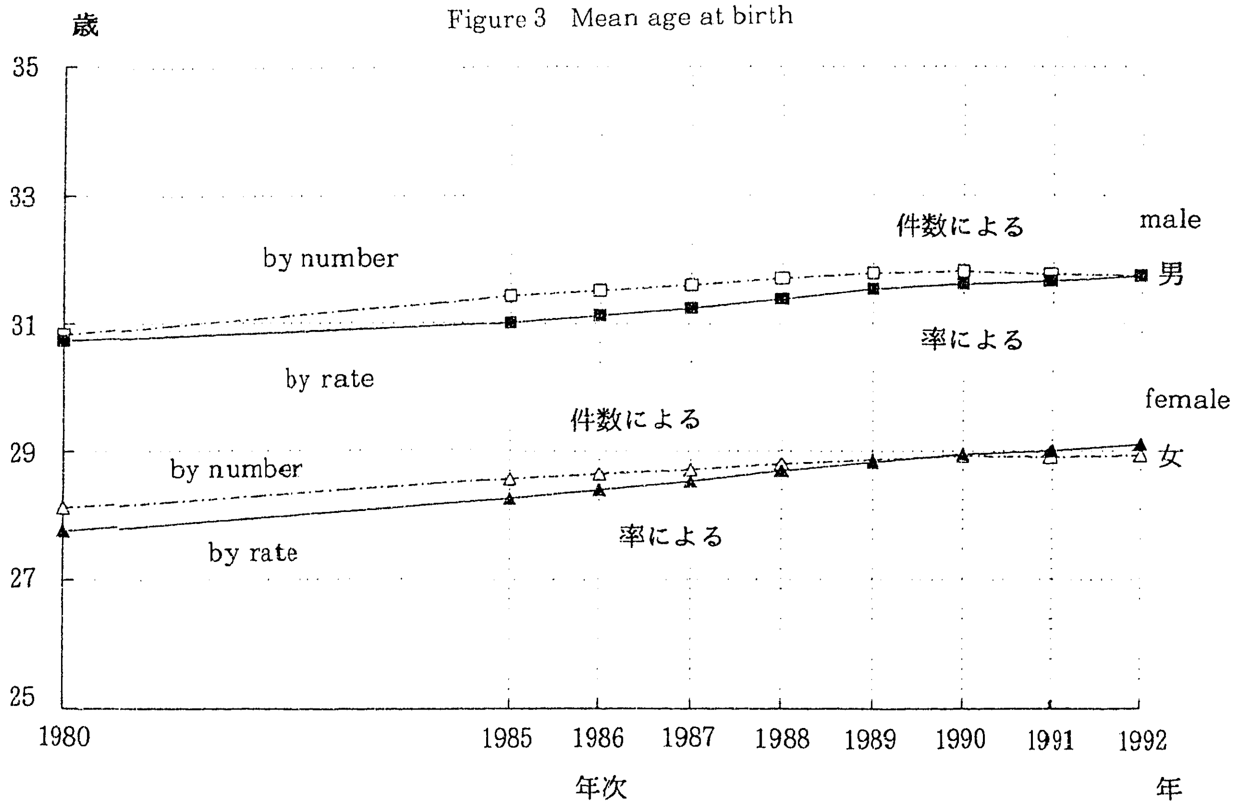



図3　平均出生年齢の推移
Figure 3　Mean age at birth